

季節の伝統植物 [冬]

冬の華・サザンカ

令和5年11月28日(火)～令和6年1月28日(日)

国立歴史民俗博物館

サザンカ (*Camellia sasanqua*) の自生種は、沖縄の西表島から南西諸島、九州とその周辺島嶼、および四国の西南部に分布しています。それらを素材として生みだされた数々の品種は、園芸文化の「冬の華」として各地に伝播し、幾度かの盛衰を繰り返しながら今日に受け継がれています。

1695(元禄8)年に刊行された『^{かだんちきんしょう}花壇地錦抄』には、「茶山花のるひ」として、「三段花」などいくつかの品種が記載されています。現在では、約300もの品種が知られており、また最近では古く海外に渡り改良された品種が里帰りしている例もみられます。

野生のサザンカは白い花を咲かせますが、園芸品種の花色には、白のほか、紅、桃、ぼかしなど濃淡さまざまで、花形、大きさも多様です。

これらの園芸品種は、開花の時期、花の形、樹性などの違いから、大きく「サザンカ」、「シシガシラ(カンツバキ)」、「ハルサザンカ」、「タゴトノツキ」という四つのグループに分けられています。

サザンカ各品種群の主な特性

品種群 特性	サザンカ	シシガシラ (カンツバキ)	ハルサザンカ	タゴトノツキ	ツバキ
開花期	10月～12月	11月～3月	12月～4月	11月～12月	10月～5月
花色	白～紅、ぼかし (白が基本)	白～紅、まれに 縁紅ぼかし	白～紅、縦絞り、 縁紅ぼかし	白	白～紅、縦絞り (紅が基本)
大きさ	小輪～大輪	小輪～中輪	小輪～大輪	小輪	小輪～巨大輪
花弁	一重～半八重 (雄蕊弁化なし)	八重～獅子咲 (雄蕊一部弁化)	一重～千重咲 (花形は多様)	一重咲 (雄蕊弁化なし)	一重～千重咲 (花形は多様)
花の香	強い	弱い	ほとんどないもの から強いものまで	弱い	ほとんどない
萼苞	開花時には落下	開花時には落下	多くは開花時には 落下、一部は着生	開花時には落下	落花後に落ちる
葉の大きさ	小型～中型	中型	小型～中型	大型	大型～極大型
樹形	多くは立性	多くは横張性	立性～横張性	立性で横にも張る	立性～横張性

サザンカ群

秋から冬にかけて、一重～二重の花を咲かせます。大輪花も多く、また、「江戸サザンカ」の代表的なものも、この品種群のなかまです。

生態、形態的には、サザンカの自生種に近いグループで、樹形も自生種に似て、多くは立性です。



朝日鶴 (あさひづる)

白地に濃紅のぼかし、一重だが弁数が多い大輪。埼玉産。



雪山 (せつざん)

白色で一重、平開咲の大輪。江戸サザンカ。

シシガシラ群 (カンツバキ群)

中部地方に古木が多い「獅子頭」(関東地方では「寒椿」と呼ばれます)がもとになってつくられたもので、真冬に八重や獅子咲などの華やかな花を咲かせます。

樹形は立ち上がらずに横張性のもの多く、枝葉が密生して、仕立てやすいものが多いようです。



晴姿 (はれすがた)

白地で外弁の先端裏が桃紅色。八重咲の中輪。



緋乙女 (ひおとめ)

桃色を含んだ紅色。千重で小～中輪。紅乙女、昭和の誉、御幸などの別名がある。

ハルサザンカ群

サザンカとヤブツバキの自然交雑により生まれたと考えられています。その名前が示すように、開花の時期が遅く、初冬から春にかけて、一重や八重、千重咲まで、多様な花を咲かせます。

樹形も、立性から横張性までさまざまです。



古金欄 (こきんらん)

淡桃地に紅の縦絞りや吹掛絞り。一重で盃状から平開咲きの小輪。「諸色花形帳」(1789)に記載。



讃岐 (さぬき)

鮮紅色で光沢がある。弁数が多い一重で、平開咲の小輪。古くから香川県にあり、西讃岐に多い。

タゴトノツキ群

中国原産の「油茶」の系統をひくものと考えられています。園芸品種は少なく、古くから知られているものは、「田毎の月」ただひとつです。



田毎の月 (たごとのつき)

白色、一重で平開咲の小輪。葉は広い楕円形で光沢がなく、大型。よく結実する。